

事業名	根郷寿大学				
ジャンル	家庭教育 ・ 青少年教育 ・ 成人教育 ・ 団体育成				
事業分類	実生活に即する教育 学術及び文化に関する各種の事業 (社会教育法第20条「公民館の目的」より)				
事業意図	住民の教養の向上 ・ 健康の増進 情操の純化 (社会教育法第20条より)				
事業目的	生活文化の振興 ・ 社会福祉の増進 (社会教育法第20条より)				
日程	5月～3月 全10回	講師	元根郷小学校 校長 諸根彦之氏他7名	参加費	400円
対象者	60歳以上	参加者数 (延べ)	487人	募集方法	こうほう佐倉・市ホームページ・チラシ・公民館だより等
趣旨	○高齢化が進む社会の中で、郷土愛を育み、地域の中で連帯を持ちながら充実した生活が送れるよう、健康の保持増進、歴史・文化、社会現象などを学ぶ場として、また交流の場として開設する。				
内容	○郷土の歴史や文化、健康づくり等の幅広い分野を学び、教養の向上と社会参加の推進を目的とし、また、受講者同士の交流も図り、各種講座を実施しました。 ①歴史・文化(佐倉の歴史等) ④校外学習(1月実施予定) ②防災 ③健康づくり				
工夫	○ちば電子申請サービスでの申し込みの導入 ○スポーツ安全保険への加入(任意) ○防災関連を講義に加え、地域に還元 ○校外学習・学びあい講座の復活				
成果	○9月に学習した防災の講座について、受講生が、自治会の方に話をした。 ○11月に学習した健康維持の講座について、継続して実施している受講生が多数いる。 ○ちば電子申請サービスでの申し込みを導入し、DXを推進した。 ○校外学習・学びあい講座の復活させ、受講者同士の交流を図った。				
課題	○班活動に温度差が出ている。 ○受講生の入れ替わりが少ないので、講義内容に工夫が必要 ○受講生の高齢化が進み、色々な活動に支障が出ている。				

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	・公民館が行う必要があるか。 ・市民や利用者のニーズに合っているか。 ・目的や役割が薄れていないか。 ・事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	・事業の優先度は高いか。
公平性	A	・対象者に情報は流れているか。 ・受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	B	・期待通りの成果が得られているか。 ・さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 ・市民の満足度は高いか。
効率性	A	・事業の効率性はどうか。 ・事業運営に学習者が参画しているか。 ・他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。 C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。
特記		

《凡例》

良い ← A B C D → 良くない

《判定例》

A } A B } A B } A } A } A
A } [A] A } [A] A } [B] A } [A] B } [A or B]
A }

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

☆公民館運営審議委員付帯意見

(A：適切で成果あり B：成果はあるが、改善の余地あり C：要改善)

委員①		
総合評価	B	絶対的に必要な内容と思われる。社会構造の変化の中、普遍性をどのように持たせるのか、大きな視点での工夫が必要な時期であると思う。

委員②		
総合評価	A	高齢者が対象で、さまざまなジャンルについて学べるのが興味深く感じられました。企画の中には「校外学習」と銘打って、受講者が外に出かけていたり、一方的な講座形式ではなく、受講者同士の交流を深めたりする場面もあるのは、高齢者にとってもありがたいことだと思います。ただ、「大学」とネーミングしているように、他の公民館と比べて回数が10回と多いことが、企画側・受講者どちらにとっても負担になってしまわないか気になりました。

委員③		
総合評価	A	伝統のある活動であり、実がともなっている。地域貢献も大であり、何度でも参加できる機会があるとよい。

委員④		
総合評価	A	高齢者の居場所事業としての成果を感じる。

委員⑤		
総合評価	A	

委員⑥		
総合評価	A	趣旨を満たして、且つ防災講座をとり入れて、その結果、地域に還元されていることは、目的に沿った内容であると思います。さらに防災の体験を校外学習として行ったことは、より一層の成果になっていることはアンケート結果が表しております。 班活動の成果は連携を一層深める、その成果は大きいと感じます。

委員⑦		
総合評価	B	毎年80名を募集し、入れ替わりが少ないというのは運営する側にとってはかなりの工夫を強いられる状況と推察します。受講生にとっては生きがいの場として欠かせない場一方で、毎年平均年齢の上昇が課題とすれば、若返り策を講じる必要があります。すでに検討済みかも知れませんが、連続の受講を制限し、複数年にわたる受講者には、自主グループによる活動を促すなどして支援する新たなコースを設けてみたらどうでしょう。実態は分かりませんが、在校生たちの仲間意識が強くなればなるほど新たな若手が加わりにくい雰囲気があったりもしませんか。半世紀以上にわたり継続してきた歴史ある寿大学存続のためには、若返りが必須と思われます。

委員⑧		A	関心の高い参加者が継続して学び、自治会への提言をするなど、生かしていることは素晴らしい事です。個人の学びが、地域との関わりのスタートになる機会になります。とかく高齢者ばかりが学ぶ場の様な名称であることが少々気にはなりますが、参加者は気力のある実質年齢の若い方々がそろっていることで、今後の交流に一層期待が持てます。なにより参加者が多く、班活動を行えることは素晴らしい取り組みの裏付けです。
総合評価			

委員⑨		A	
総合評価			

委員⑩		A	寿大学は毎年定員が確保されている理由がよくわかりません。課題の中で入れ替わりが少ないので、講義内容に工夫が必要とあります。公平性は担保されていると信じています。高齢者が喜んで参加しているのは良い事です。
総合評価			

委員⑪		A	寿大学という高齢者向けの講座は、高齢者にとって仲間を作る、近況を語る等、別の意味で、公民館に出向くという楽しみがあります。 高齢者にとって、身近な少し知的で楽しくなるような講座を企画して下さい。
総合評価			

委員⑫		A	今回は日程が合わず視察に参加していないので、詳細は分からないが地域で聞く評判や担当者の説明により、概ね適切であろうと思われる。ただ、担当者が危惧している様に、本事業は大きな転換点を迎えていることも間違いない。中央公民館や志津公民館のような継続・総合的講座（大学・カレッジ）と異なり、同館の本事業の成り立ちは異なる。前二館は市内に於ける都市部の館であるのに対し、本館エリアは第一次・二次産業がメインであった歴史的背景がある。その為、旧来大学といっても知的的好奇心重視より、高齢者が集いの場としての意味合いが強かった。そして昭和末くらいからの新住民のリタイア組を受け入れ、新旧住民（高齢者）の交流の場へと内容が少しずつ変化した経緯がある。しかし現在では旧住民と新住民などと言った区別はほぼ無意味で、旧来の集いの場の提供では欲求を満たすことが難しくなっているのではないかと。今後は如何に要求を的確に把握し対応する講座を開設できるか、公民館主事の腕の見せ所であろう。
総合評価			

委員⑬		A	内容の濃い講座ですね。DXの推進についても講座に入っているのは良いと思います。参加者の評価はあまり高くないようですが必要です。2回やってもよかったのではと思います。
総合評価			

委員⑭		B	受講生の高齢化と講義内容マンネリ化について ・講義内容の見直し：受講生のニーズや興味関心を踏まえ、講義内容を刷新する。アンケートや意見交換会などを実施し、受講生の意向を把握する。 ・講師の選択：地域の専門家や大学講師など招き多様な分野の講義を提供する。 ・ICT活用：オンライン講座や動画配信など、ICTを活用した学習機会を提供する。
総合評価			

委員⑮		A	寿大学もなかなか参加者が多くて抽選と聞いています。開講中1回、一般公開もして頂けると幸いです。
総合評価			